

## 根間弘海 教授 履歴・業績



## 根間弘海 教授 履歴・業績

根間弘海 (ねま ひろみ)

1943年2月12日 沖縄県宮古島生まれ

### 【略 歴】

1965年3月 琉球大学法文学部英語英文科卒業

1966年6月～1968年1月 聖マイケル大学大学院（バーモント州）修士課程修了（英語教授法）

1970年6月～1972年1月 ハワイ大学大学院修士課程修了（言語学）

1972年2月～1974年2月 ハワイ大学大学院博士課程単位取得満期退学（言語学）

1974年4月～1975年3月 東北大学大学院文学研究科英語学専攻研究生

### 【主要業績】

#### 【著書・翻訳書】

1978年8月 『初歩生成音韻論』, 216頁, 中部日本教育文化会.

1978年8月 『初歩英語音声学』, 210頁, 中部日本教育文化会.

1979年1月 『生成音韻論接近法』, 184頁, 中部日本教育文化会.

1979年6月 『話題英作文』, 63頁 (TMあり), 中部日本教育文化会.

1979年6月 『英作文教本』, 63頁 (TMあり), 中部日本教育文化会.

1980年2月 『生成音韻論』 (S. A. Schane 著 Generative Phonology の訳書, 桑原氏と共訳, 191頁, 研究社.

1980年9月 『音声構造と規則性』, 193頁, 文化評論出版.

1980年12月 English Through Listening and Speaking, Werner 氏と共著, 109頁 (TMあり), 英宝社.

1982年3月 『音韻分析の周辺』, 221頁, 晃学出版.

1983年2月 『現代英語の強勢体系』 (Halle & Keyser 著 English Stress の訳書, 桑原氏と共訳, 176頁, 英宝社.

1983年12月 Explain It in English, Abe 氏と共著, 70頁 (TMあり), 金星堂.

1983年1月 A Better Guide to Oral English, Abe 氏と共著, 112頁 (TMあり), 金星堂.

1984年3月 『英語の強勢と定式化』, 204頁, 晃学出版.

1984年9月 Practical English Aural-Oral Course 2 : Step Grade 2 (Book 1), 144頁, 日本英語教育協会.

1984年9月 Practical English Aural-Oral Course 2 : Step Grade 2 (Book 2), 144頁, 日本英語教育協会.

1984年12月 Teach Me How in English, Abe 氏と共著, 110頁 (TMあり), 英宝社.

1985年5月 『韻律理論と英語の強勢』, 283頁, 晃学出版.

1986年10月 『英語の発音演習』, 191頁 (TMあり), 大修館書店.

1987年12月 Background to English Speaking Countries, Musman 著の注釈と設問作成, 126頁 (TMあり), マクミランランゲージハウス.

1988年2月 『フレッシュ・英語の発音演習』, 103頁 (TMあり), 大修館書店.

- 1988年2月 Effective English Writing, Logan氏と共著, 93頁 (TMあり), 桐原書店.
- 1988年11月 Communication Through English, Logan氏と共著, 135頁 (TMあり), 英宝社.
- 1990年1月 Life on Campus, Logan氏と共著, 128頁 (TMあり), 金星堂.
- 1990年5月 『最新米語会話教本』(上級編), Cataldo氏と共著, 271頁, 日本英語教育協会.
- 1991年1月 Daily Life in America, Logan氏と共著, 129頁 (TMあり), 英宝社.
- 1991年2月 English Writing for Better Speaking, Reniker氏と共著, 120頁 (TMあり), 桐原書店.
- 1991年11月 『英語音声学演習』, 149頁 (TMあり), 大修館書店.
- 1992年1月 American Life from a New Angle, Cataldo氏と共著, 90頁 (TMあり), 金星堂.
- 1992年1月 What's Up in America?, Ball氏と共著, 86頁 (TMあり), 英宝社.
- 1992年2月 New College English Course, Anderson氏と共著, 93頁 (TMあり), 桐原書店.
- 1993年1月 Write for Fun, Phillips氏と共著, 122頁 (TMあり), 英宝社.
- 1993年2月 U.S. Scenes Today, Smillie氏と共著, 103頁 (TMあり), 三修社.
- 1994年1月 Expressing Japanese Culture, Smillie氏と共著, 136頁 (TMあり), 金星堂.
- 1994年1月 Freedom, Rights and Responsibility, Reveler氏と共著, 130頁 (TMあり), 金星堂.
- 1994年2月 Listening Network, Smillie氏と共著, 111頁 (TMあり), 三修社.
- 1995年1月 Thinking of Our World, Cataldo氏と共著, 123頁 (TMあり), 英宝社.
- 1995年1月 20 Short Listening Tests, Reveler氏と共著, 44頁 (TMあり), 金星堂.
- 1995年1月 Expressions for Everyday Life, Logan氏と共著, 96頁 (TMあり), 金星堂.
- 1995年2月 Rediscovering America and Canada, Reveler氏と共著, 110頁 (TMあり), 研究社.
- 1995年3月 Across the Border, Smillie氏と共著, 106頁 (TMあり), 三修社.
- 1996年10月 『英語の発音とリズム』, 194頁 (TMあり), 開拓社.
- 1996年1月 『大学生のポキャピル・テスト』, Reveler氏と共著, 96頁 (TMあり), 金星堂.
- 1996年1月 Life and the Earth, Smillie氏と共著, 126頁 (TMあり), 英宝社.
- 1996年2月 Just the Way You Are, Ferris氏と共著, 105頁 (TMあり), 三修社.
- 1996年1月 Screening Current Issues, Reveler氏と共著, 116頁 (TMあり), 金星堂.
- 1997年2月 Twenty American Heroes, Serafin氏と共著, 103頁 (TMあり), 三修社.
- 1997年2月 TOEFL-Style Listening Helper 20, Smillie氏と共著, 44頁 (TMあり), 英潮社.
- 1997年3月 『アクセス TOEFL』, トレヴィル氏と共著, 174頁 (TMあり), 洋販出版.
- 1998年4月 『ここまで知って大相撲通』, 237頁, グラフ社.
- 1998年8月 『Q&A形式で相撲を知る SUMO キークエスチョン258』(岩淵デボラ訳), 205頁, 洋販出版.
- 1998年1月 Enjoy Expressing Yourself, Smillier氏と共著, 95頁 (TMあり), 金星堂.
- 1998年1月 Your Ear for English, Smillie氏と共著, 40頁 (TMあり), 金星堂.
- 1998年2月 Listening, Shadowing and Speaking, McGrath氏と共著, 87頁 (TMあり), 英潮社.
- 1998年2月 American Sights and Sounds, Smillie氏と共著, 93頁 (TMあり), 三修社.
- 1998年8月 『口語表現で学ぶ速解英単語』, Smillie氏と共著, 414頁 (TMあり), 洋販出版.
- 1999年1月 Listen, Look and Answer, Clark氏と共著, Haruhiko Miyajima (宮島晴彦)のペンネームで執筆, 50頁 (TMあり), 英宝社.
- 1999年2月 Better Listening Through Rhythm, Smillie氏と共著, 102頁 (TMあり), 英宝社.
- 1999年2月 Daily Life Listening, Smillie氏と共著, 61頁 (TMあり), 英宝社.

- 1999年2月 Reading into the Future, Smillie 氏と共著, 110頁 (TM あり), 金星堂.
- 1999年4月 『こうすれば通じる英語の発音』, Smillie 氏と共著, 175頁 (TM あり), ジャパンタイムズ社.
- 2000年1月 Your Window on Listening, Smillie 氏と共著, 44頁 (TM あり), 金星堂.
- 2000年1月 Listening Closer to English, Smillie 氏と共著, 50頁 (TM あり), 英宝社.
- 2000年1月 『発音とリズムをマスターする英語音声学』, 鈴木氏と共著, 157頁 (TM あり), 英宝社.
- 2000年2月 Changing Ideas Around Us, Smillie 氏と共著, 102頁 (TM あり), 英潮社.
- 2001年1月 TOEFL-Type Questions on Hot Topics, Reveler 氏と共著, 125頁 (TM あり), 英宝社.
- 2001年1月 Our Changing World, Reveler 氏と共著, 102頁 (TM あり), 南雲堂.
- 2001年1月 Listening and Self-Expression, Smillie 氏と共著, 95頁 (TM あり), 南雲堂.
- 2001年2月 Listen In and Speak Out, McGrath & Patterson 両氏と共著, 90頁 (TM あり), 英潮社.
- 2001年5月 『英語のリズムと発音の理論』, 241頁 (TM あり), 英宝社.
- 2001年11月 Lively Writing, Reveler 氏と共著, 106頁 (TM あり), 南雲堂.
- 2002年1月 First Steps to TOEIC Test Listening, Smillie 氏と共著, 43頁 (TM あり), 桐原書店.
- 2002年11月 Keep on Listening, Reveler 氏と共著, 49頁 (TM あり), 南雲堂.
- 2002年6月 『リズムで覚える英語のリスニング』, Nagatomo 氏と共著, 189頁, ナツメ社.
- 2003年1月 A New Read on World Issues, Reveler 氏と共著, 71頁 (TM あり), 英宝社.
- 2003年3月 『英語はリズムだ!』, Smillie 氏と共著, 188頁, 創元社.
- 2004年7月 『リズムに乗せれば英語は話せる』, Smillie 氏と共著, 149頁 (TM あり), 創元社.
- 2004年1月 EFL News Desk, Reveler 氏と共著, 64頁 (TM あり), 英宝社.
- 2004年1月 Improving Listening and Pronunciation with Rhythm, Smillie 氏と共著, 62頁 (TM あり), 英宝社.
- 2004年1月 Burning Issues, Reveler 氏と共著, 85頁 (TM あり), 南雲堂.
- 2005年1月 Listening Through Rhythm and Folk Songs, Smillie 氏と共著, 50頁 (TM あり), 英宝社.
- 2005年1月 Topical Topics for TOEFL-Type Reading, Reveler 氏と共著, 122頁 (TM あり), 英宝社.
- 2005年1月 Listening Workout, Smillie 氏と共著, 95頁 (TM あり), 南雲堂.
- 2006年1月 Current History, Reveler 氏と共著, 77頁 (TM あり), 南雲堂.
- 2006年5月 『大相撲と歩んだ行司人生51年』, 33代木村庄之助と共著, 179頁, 英宝社.
- 2007年1月 Advertisements, Postcards and Web Pages, Reveler 氏と共著, 117頁 (TM あり), 英宝社.
- 2009年2月 English for the Digital World, Reveler 氏と共著, 94頁 (TM あり), 三修社堂.
- 2010年7月 『大相撲行司の伝統と変化』, 352頁, 専修大学出版局.
- 2011年3月 Reading the World, Reveler 氏と共著, 60頁 (TM あり), 南雲堂.
- 2011年11月 『大相撲行司の世界』, 193頁, 吉川弘文館.
- 2012年8月 『大相撲行司の軍配房と土俵』, 279頁, 専修大学出版局.

## 【論文】

〔英語や音韻関係〕

- 1975年12月 「形態論と生成文法 (1)」『金城学院大学英米文学編』第17号, pp. 93-111.
- 1976年12月 「自然音韻論の輪郭」『金城学院大学英米文学編』第18号, pp. 109-26.
- 1978年3月 「日本語のピッチ・アクセント」『金城学院大学英米文学編』第19号, pp. 99-121.

- 1979年2月 「基底分節音の配列をめぐる」『金城学院大学英米文学編』第20号, pp. 139-59.
- 1980年3月 「なぜ弁別素性か」『金城学院大学英米文学編』第21号, pp. 155-83.
- 1980年7月 「動詞活用変化の分析について」『表現学論叢』(表現学会編), pp. 37-50, 中部日本教育文化会.
- 1981年9月 「動詞語形変化の分析をめぐる問題点」『表現研究』第34号(表現学会), pp. 41-50.
- 1981年3月 「外来語の周辺」『金城学院大学英米文学編』第22号, pp. 157-84.
- 1983年3月 「外来語と規則の正当化」『弘前大学人文学部文経論叢』第18巻3号, pp. 25-46.
- 1985年3月 「接尾辞-(at) oy と -ary を伴う語」『弘前大学人文学部文経論叢』第20巻3号, pp. 163-90.
- 1987年2月 「句のリズム規則と韻律樹形図」『専修人文論集』第39号, pp. 49-87.
- 1991年8月 「音韻論の空白」『専修人文論集』第48号, pp. 69-98.
- 1992年12月 「リズム調整と強勢移動」『専修語学ラボラトリー論集』第21号, pp. 37-64.
- 1993年2月 「複合語と句の強勢」『専修人文論集』第51号, pp. 137-61
- 1993年3月 「言語教育とCAI」『専修大学情報科学研究』, No. 13, 加藤・島田両氏と共著, pp. 12-33.
- 1993年7月 「英語のリズム調整と強勢付与」『専修大学人文科学研究月報』第154号, pp. 1-34.
- 1993年9月 「複合語強勢規則と核強勢規則」『専修人文論集』第52号, pp. 35-62.
- 1993年12月 「英語の強勢とリズム」『専修大学外国語教育論集』第22号, pp. 57-88.
- 1993年11月 「CAIによるリスニングとスピーキング」『コンピュータ利用の外国語教育』, 加藤氏と共著, pp. 170-9.
- 1994年2月 「英語の韻脚とグリッド」『専修人文論集』第53号, pp. 143-80.
- 1994年9月 「英語の帯気化と弾音化と声門化」『専修大学人文科学研究月報』第160号, pp. 1-40.
- 1994年9月 「連続する機能後のリズム」『専修人文論集』第54号, pp. 75-107.
- 1995年3月 「英語の子音連結と音節区分」『専修人文論集』第56号, pp. 23-61.
- 1995年3月 「英語の子音連結と聞こえ度」『専修大学外国語教育論集』第23号, pp. 65-94.
- 1995年10月 「英語の音節区分と両音節姓」『専修人文論集』第57号, pp. 49-82.
- 1996年3月 「英語の音韻規則と適用領域」『専修大学外国語教育論集』第24号, pp. 19-48.
- 1996年10月 「英語の母音推移と母音交替」『専修人文論集』第59号, pp. 115-60.
- 1997年3月 「英語の子音交替」『専修大学外国語教育論集』第25号, pp. 1-27.
- 1997年3月 「英語の無強勢化」『専修人文論集』第60号, pp. 171-215.
- 1999年3月 「シャドーイングと逐次通訳による英語のLL授業」『1998年LL研究室ワークショップ発表論集』, pp. 1-8.
- 2003年3月 「英語のリズムで読む」『専修人文論集』第72号, pp. 301-36.
- 2004年3月 「英語のリズムと強勢表記」『専修人文科学年報』第34号, pp. 29-54.
- 2005年3月 「プッシュ大統領の演説とリズム表記」『専修大学外国語教育論集』第33号, pp. 29-54.
- 2006年3月 「キング牧師の演説『私には夢がある』のリズム表記」『専修人文論集』第78号, pp. 141-60.
- 2006年3月 「英語のフォークソングとリズム表記」『専修大学外国語教育論集』第34号, pp. 17-40.

〔相撲関係〕

- 2003年3月 「相撲の軍配」『専修大学人文科学年報』第33号, pp. 91-123.
- 2003年10月 「行司の作法」『専修人文論集』第73号, pp. 281-310.
- 2003年9月 「行司の触れごと」『専修大学人文科学月報』第207号, pp. 18-41.

- 2004年3月 「土俵祭の作法」『専修人文論集』第74号, pp.115-41.
- 2004年7月 「行司の改姓」『専修大学人文科学年報』第211号, pp.9-35.
- 2004年10月 「土俵祭の祝詞と神々」『専修人文論集』第75号, pp.149-77.
- 2005年3月 「由緒ある行司名」『専修人文論集』第76号, pp.67-96.
- 2005年3月 「土俵入の太刀持ちと行司」『専修経営学論集』第80号, pp.169-203.
- 2005年7月 「行司の改名」『専修大学人文科学月報』第218号, pp.39-63.
- 2005年7月 「軍配の握り方を巡って(上)」『相撲趣味』第146号, pp.42-53.
- 2005年10月 「軍配の握り方を巡って(中)」『相撲趣味』第147号, pp.13-21.
- 2005年10月 「軍配房の長さ」『専修人文論集』第77号, pp.269-96.
- 2005年11月 「軍配房の色」『専修経営学論集』第81号, pp.149-79.
- 2005年11月 「四本柱の色」『専修経営学論集』第81号, pp.103-47.
- 2005年12月 「軍配の握り方を巡って(下)」『相撲趣味』第148号, pp.32-51.
- 2006年3月 「南部相撲の四角土俵と丸土俵」『専修経営学論集』第82号, pp.131-62.
- 2006年3月 「軍配の型」『専修経営学論集』第82号, pp.163-201.
- 2006年3月 「譲り団扇」『専修大学人文科学研究所月報』第233号, pp.39-65.
- 2006年10月 「天正8年の相撲由来記」『相撲趣味』第149号, pp.14-33.
- 2006年10月 「土俵の構築」『専修人文論集』第79号, pp.29-54.
- 2006年12月 「土俵の揚巻」『専修経営学論集』第83号, pp.245-76.
- 2007年3月 「幕下格以下行司の階級色」『専修経営学論集』第84号, pp.219-40.
- 2007年3月 「行司と草履」『専修経営学論集』第84号, pp.185-218.
- 2007年3月 「謎の絵は南部相撲ではない」『専修人文論集』第80号, pp.1-30.
- 2007年10月 「立行司の階級色」『専修人文論集』第81号, pp.67-97.
- 2007年11月 「座布団投げ」『専修経営学論集』第85号, pp.79-106.
- 2007年11月 「緋房と草履」『専修経営学論集』第85号, pp.43-78.
- 2008年3月 「行司の黒星と規定」『専修人文論集』第82号, pp.155-80.
- 2008年3月 「土俵の屋根」『専修経営学論集』第86号, pp.89-130.
- 2008年10月 「明治43年5月以降の紫と紫白」『専修人文論集』第83号, pp.259-96.
- 2008年11月 「明治43年以前の紫房は紫白だった」『専修経営学論集』第87号, pp.77-126.
- 2009年3月 「昭和初期の番付と行司」『専修経営学論集』第88号, pp.123-57.
- 2009年3月 「行司の帯刀」『専修人文論集』第84号, pp.283-313.
- 2009年3月 「番付の行司」『専修大学人文科学年報』第39号, pp.137-62.
- 2009年10月 「帯刀は切腹覚悟のシンボルではない」『専修人文論集』第85号, pp.117-51.
- 2009年11月 「明治30年以降の番付と房の色」『専修経営学論集』第89号, pp.51-106.
- 2010年3月 「大正時代の番付と房の色」『専修経営学論集』第90号, pp.207-58.
- 2010年3月 「明治の立行司の席順」『専修経営学論集』第92号, pp.31-51.
- 2010年3月 「改名した行司に聞く」『専修大学人文科学年報』第40号, pp.181-211.
- 2010年10月 「立行司も明治11年には帯刀しなかった」『専修人文論集』第87号, pp.199-234.
- 2010年12月 「草履の朱房行司と無草履の朱房行司」『専修経営学論集』第91号, pp.23-51.
- 2010年12月 「上覧相撲の横綱土俵入りと行司の着用具」『専修経営学論集』第91号, pp.53-69.

- 2011年3月 「天覧相撲と土俵入り」『専修人文論集』第88号, pp. 229-64.
- 2011年3月 「明治時代の四本柱の四色」『専修大学人文科学年報』第41号, pp. 143-73.
- 2011年10月 「行司の木村姓と式守姓の名乗り」『専修人文論集』第89号, pp. 131-58.
- 2011年12月 「現役行司の入門アンケート調査」『専修経営学論集』第91号, pp. 1-28.
- 2012年3月 「土俵三周の太鼓と触れ太鼓」『専修人文論集』第90号, pp. 377-408.
- 2012年3月 「大正期の立行司を巡って」『専修経営学論集』第94号, pp. 31-51.
- 2012年3月 「明治と大正時代の立行司とその昇格年月」『専修大学人文科学年報』第42号, pp. 123-52.
- 2012年10月 「大正末期の三名の朱房行司」『専修人文論集』第91号, pp. 143-74.
- 2013年3月 「江戸時代の行司の紫房と草履」『専修大学人文科学年報』第43号。(近刊)
- 2013年3月 「足袋行司の出現と定着」『専修人文論集』第92号。(近刊)
- 2013年3月 「十両以上の行司の軍配」『専修経営学論集』第95号。(近刊)

【短評・雑誌記事等】

- 1975年 『新言語学辞典』(改訂増補版)の「WP」項, pp. 597-8, 研究社.
- 1979年10月 「『フィーバー』の『フィ』をめぐって」(月刊)『言語』10月号, pp. 126-8, 大修館書店.
- 1980年1月 寛・他著『生成音韻論』(英宝社)の短評, (月刊)『言語』1月号, 大修館書店.
- 1984年6月 月刊『英語青年』(研究社)の「海外新潮」(英語学)の項, 昭和59年6月号, 9月号, 12月号と昭和60年3月号.
- 1987年4月 「(教師に)望まれる音声の運用力」(月刊)『英語教育』4月号, pp. 126-8, 大修館書店.
- 1987年8月 島岡・佐藤著『最新の音声学・音韻論』(研究社)の短評, 月刊『現代英語教育』8月号, 研究社.
- 1987年9月 「一次ヒアリング・テスト (Part 2)」(月刊)『百万人の英語』9月臨時増刊号, pp. 84-7, 日本英語教育協会.
- 1988年5月 「英検3級予想問題 (一次筆記試験)」(月刊)『百万人の英語』5月臨時増刊号, pp. 39-46, 日本英語教育協会.
- 1988年9月 「英語発音の特徴」(月刊)『英語教育』9月増刊号, pp. 26-8, 大修館書店.
- 1988年9月 「英検一次ヒアリングテスト (準一級・一級)」(月刊)『百万人の英語』9月臨時増刊号, pp. 86-9/pp. 111-2, 日本英語教育協会.
- 1989年5月 「1級聞き取り力がモノになるワンポイント対策」(月刊)『百万人の英語』5月臨時増刊号, pp. 12-4, 日本英語教育協会.
- 1990年5月 「英検受験直前対策 (Step 8 ~ Step 10): 構文 (1) ~ (3)」(月刊)『百万人の英語』5月臨時増刊号, pp. 52-63, 日本英語教育協会.
- 1990年12月 「文強勢と音調」(月刊)『英語教育』12月号, pp. 8-9, 大修館書店.
- 1992年10月 「英語らしいリズムとイントネーション」(月刊)『英語教育』10月号, pp. 20-2, 大修館書店.
- 1993年4月 月刊『英語青年』4月号で安井著『音声学』(開拓社, 1992)の書評.
- 1995年8月 「英語らしいリズム・イントネーションの獲得」(月刊)『英語教育』8月号, pp. 26-8, 大修館書店.
- 1996年11月 「英語の無強勢化」『音韻研究』(音韻論研究会編), pp. 21-4, 開拓社.
- 1996年11月 島岡・他編著『音声学・音韻論』で Goyvaerts 著 Aspects of Post-SPE Phonology の項 (pp. 169-



- 70) と Goyvaerts & Pullum 編 Essays on the Sound Pattern of English の項 (pp. 167-9) を執筆, 研究社.  
 1997年3月 「TOEFL 模試で力試し」『週刊 ST』.  
 2002年12月 「ネイティブっぽく聞こえる発音のツボ30」月刊『English Journal』(12月号), pp. 27-40, アルク.  
 2006年9月 「行司と軍配」『四角い土俵とチカラビト』, pp. 50-1, 岩手県立博物館 (第57回企画展).  
 2007年1月 「教養英語の発音教育」『中央評論 (特集 ほんものの外国語学習とは?)』, No. 258, pp. 68-77, 中央大学.

この他に, 「宮古方言における助詞の一部と代名詞の形態」(40頁, 1968年), 「宮古方言における分節音その研究」(37頁, 1969年2), 「宮古方言における動詞と形容詞の語尾変化について」(36頁, 1969年11) を沖縄女子短期大学在職時に謄写版で発表している。また, 1978年頃には『愛知大学外国語研究室報』第2号で「英語学習と英語らしい発音」(2頁) を発表しているが, 正確な発行年月とページ数は確かでない。

#### 【学会発表】

- 1974年10月 「基底分節音/? / (SPE の前舌・低・張り母音) をめぐって」, 東北英文学会.  
 1977年11月 「外来語の『デモ』」, 大阪外国語大学言語研究会.  
 1981年5月 「動詞語形変化の分析をめぐる問題点」, 表現学会.  
 1984年10月 「接尾辞-(at) ory と -ary を伴う語について」, 東北英文学会.  
 1985年11月 「句のリズム規則と韻律樹形図」, 日本英語学会.

#### 【その他】

(記憶に残る学外の主なもの。個人的活動も含む。リストの中には主催者と年月日が確かでないものもあるかもしれない。)

- 1987年4月以降 (2013年3まで) 中央大学理工学部で非常勤講師 (一般英語).  
 1987年4月以降 (2012年9まで) 東海大学文学部で非常勤講師 (英語音声学).  
 1988年9月 後期に美咲市の北海道短期大学で講演 (英語力をつけるには). 日付は確かでない.  
 1989年5月 前期に玉名市の玉名高校で訪問懇談 (英語教育について英語教師と語り合う). 日付は確かでない.  
 1991年9月 福島県郡山市の奥羽大学文学部で4日間の集中講義 (英語音声学).  
 1997年6月 横須賀市主催の市民対象の講演 (相撲), 日付と主催者名は確かでない.  
 1998年5月 墨田区の市民講座で2カ月間 (8回ほど) 講座担当 (相撲), 日付は確かでない.  
 2001年9月 岩手県立博物館で講演 (相撲の行司).  
 2001年7月 ポストンで二カ月ほど短期在外研究 (言語学).  
 2009年7月 エルサレムで二カ月ほど短期在外研究 (ユダヤ教). その後, 2010年7月にも二カ月ほどイスラエル滞在 (ユダヤ教). 2011年8月にはシリアを10間ほど旅行 (中東の宗教).  
 2010年3月 テレビ局 TBS のクイズ番組でビデオ出演 (板番付の解答と解説). 撮影は研究室.

立教大学文学部 (「英語の発音」担当) や日本大学商学部 (「一般英語」担当) でもしばらく非常勤講師をしていたことがある。他には, 金城学院大学に勤務していたとき, 1977年の7月から8月にかけてヨーロッパと

イギリスを一カ月ほど引率して研修旅行している。英語と関係ある学会には若い頃いくつか（たとえば、英語学会、英語音韻論学会、JACET、表現学会など）に入ったり辞めたりしているが、正確な年月日は覚えていない。全国英語学会や東北英語学会のシンポジウム（音韻論の部）で幾度か司会を務めたこともある。専修大学に赴任して間もなく、英語を話せる海外の人と交流するためにハムの免許を取得したが、必要な器具を購入することもせず、結果的には免許を活かすことができなかった。

なお、このリストの各項目には主だったことを記してある。研究室に所蔵してあるものや記憶にあるものを頼りにまとめてある。かなり正確なリストにはなっているが、記入されていないものがあるかもしれない。そのことを最後にお断りしておきたい。